

近況の御報告と御礼

応用生物科学部 学部長 小見山 章



今年は、昭和二十四年創設の農学部と学芸学部等に関わる岐阜大学創立六十周年記念の行事を、大学全体で、六月一日の創立記念日にお祝いすることができました。これも、各務同窓会をはじめとする皆様のお力添えの賜と存じます。ありがとうございます。学部が同窓会と共に歩める幸せをかみしめています。

この六十周年記念式典は、森秀樹学長の挨拶に始まり、各種の表彰、記念講演、そして祝賀会へと続きました。とくに祝賀会で感じたのは、我が学部の諸先輩による、すばらしいメッセージでした。御存じのように、この日、岐阜大学同窓会連合会が発足して、学部同窓会間の連絡を図る仕組みができあがりました。初代会長に後藤悦男各務同窓会長が就任され、この祝賀会でも熱い御挨拶を賜りました。第九代学長を務められた金城俊夫先生からは、新しい大学に向けてエールを送っていただき

ました。圧巻だったのは、第十二代農学部長小林満先生でした。大音声で頂戴した力強いお言葉は、出席者一同の胸に深く染みとりました。さて、このような農学の歴史をあずかる応用生物科学部は、平成十六年以来、国立大学法人化の荒波の中で、たくましく育っていることを御報告いたします。

まず、法人第一期を終わろうとする中で、大学評価・学位授与機構から、外部評価（平成二十一年）を受けています。ここでは、それぞれの学部と研究科について、教育と研究の水準や質の向上度がはかられます。その結果を見て驚いたのは、応用生物科学部および関連する研究科の評価が、他学部・研究科と比較して格段に高いことでした。多くの項目が、「水準を上回る」と評価されています。また、別にある総合科学技術会議の資料では、岐阜大学が行う研究で、学術論文数が国立大学上

位に入った九分野が公表されました。この中で、農学、生物・生態学、生態・環境学、分子生物・遺伝学、動植物学、微生物学など、少なくとも六分野以上が、我々の学部と研究科の研究分野で占められています。このように、現在、教職員学生が必死で頑張っている事を御理解下さい。

これら教育と研究に関する経常努力に加えて、今年度に入って、応用生物科学関連で、次々と新しいトピックスが生まれています。六月に、名古屋港水族館と学術交流協定を結び、新しい学問領域が広がりました。六月二十六日には、「世界トップ拠点サテライト」の開所式を連合大学院棟で行いました。木曾真教授率いる糖鎖研究チームが、まさに世界的研究をおこなう場を設けることができました。今後の成果が楽しみです。七月には、「戦略的大学連携支援プログラム」が本省に採択されました。これは、獣医学教育を充実するため、鳥取大学および京都産業大学と協定を結びながら、実際に教育連携を強めようとするものです。九月には、「岐阜県域農林業教育システム」の覚書を、当学部が中心となって、岐阜県立の農業大学校、国際園芸アカデミー、森林文化アカデミーおよび農林高等学校と交わします。この

五者協定は、岐阜県の農林業教育にとって、エポックを作るかもしれません。高・大・大学院協力のメリットを生かし、農学に関わる貴重な人材を厚く育てたいという、我々の願いが叶いそうです。十月に入ると、全国農学系学部長会議を岐阜で開きます。我々が議長校になります。

新しい試みが古き良きものと混じり合っではじめて、その時代に整合する組織ができるものと考えます。平成十五年に採択された二十一世紀 COE による「野生動物の生態と病態からみた環境評価」プロジェクトは、野生動物管理学研究センター（旧野生動物救護センター）の事業に引き継がれています。平成十七年に採択された現代 GIP による「岐阜公民館大学」プロジェクトは、現在、地域の場を学生にみせる重要な実習となっています。新しい試みは、時による選別を経て本物になっていきます。我々は、失敗をおそれず努力し続けます。各務同窓会の皆様におかれましては、これまで多額の御寄付を含め学部運営に多大な御支援を頂戴しました。申し遅れましたが、心から厚く御礼申し上げます。これからも温かい眼差しで、後輩を見守っていただくようお願い申し上げます。

各務同窓会報



岐阜大学



会長挨拶

後藤 悦男

同窓会の皆様には益々ご清栄の段、お喜び申し上げます。平素は同窓会への格別のご協力を賜り誠にありがとうございます。また母校の先生方のご指導お世話に厚く御礼申し上げます。

今春、学部卒業生二二〇名、大学院修了生八六名が卒業され、皆様方を本会会員に迎えました。全国各支部におかれましては、新会員受け入れに、ご高配賜りますようお願い申し上げます。

母校応用生物科学部は、小見山学部長様はじめ全先生方が母校の農学の心DNAを大切にされ、研究教育を通して、有為な人材育成に、地域社会・産業・国・国際社会に役立ち貢献されている事に、敬意を表し、感謝申し上げます。

昨年、農学部創立八五周年記念事業の一環として、その残余金を基に、応用生物科学部寄付金制度を発足させることが出来ました。早速、大勢の方々

から多額のご寄付を拝受致しております。感謝感激で一杯でございます。ご協力の皆様に厚く御礼申し上げます。なお本寄付金制度は今後も継続して参りますので、会員の皆様方の温かいご協力をお願い致します。

三月二五日、卒業式学部祝賀会で、学業優秀の六名の方々に、同窓会長賞を贈呈しました。その席で、小見山学部長様から、私は学部の記念メダル拝受の栄に浴しました。皆様方そして先生方に感謝と御礼を申し上げます。

五月三十一日、各務同窓会代表委員会で、次の提言を致しました。

一、同窓会各支部から、母校の学生らに役立つ講義をボランティアで行って

下さる同窓会員を推薦頂く制度です。二、同窓会各支部から、母校受験者の推薦状を母校へ提出できる制度です。三、国立大学のトップランナーを目指す母校応用生物科学部の学部名に農学又は農林を加えて頂く事です。そして名実ともに農業・林業・畜産・獣医・食品・環境のリーダーとして、貢献される事を切願しています。

以上の提言は母校愛・同窓会愛からの要望としてご理解下さい。六月一日、岐阜大学は開学六〇周年を迎え、この佳節に、岐阜大学同窓会連合会が発足しました。九月五日、岐阜大学同窓会連合会設置記念式典・祝賀会が開催され、私共役員一同が出席

しました。本会の目的は、岐阜大学の各学部同窓会の連合組織として、大学との連携及び同窓会相互の交流を図ることにより、大学及び学部同窓会の発展に貢献する事にあります。この目的を達成するために必要な事業は、どこまでも各同窓会の独立性を尊重して、全学協力的体制で推進して参ります。連合会の設立・事業については、連合会からご報告致しますので、皆様のご理解ご協力をお願い致します。なお、私は連合会長を拝命しました。皆様のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

皆様のご健康と母校・各務同窓会の発展を祈念申し上げます。

ご挨拶

幹事長（V大25）阿閉 泰郎

春先の新型インフルエンザ騒動や9月の政権交代がありました。各務同窓会の皆様はお元気で活躍のこととお慶び申し上げます。嬉しいニュースがあります。農芸化学卒業（C大32）の塩見美喜子さん（慶大准教授）が女性科学者に贈られる最高栄誉である第29回猿橋賞を受賞されました。おめでとうございます。

各務同窓会は平成21年8月1日現在、会員数16,310名、支部数72です。今年の事業は農学部創立85周年記念事業を行った昨年に比べ幾分か減り、例年に戻り、主として代表委員会開催、同窓会報の発行、卒業式での同

窓会長賞表彰（学部3名と修士課程2名）および寄付金依頼（継続）です。代表委員会は5月31日（日）に全国37支部が参加し、その内容は次頁の「平成二十一年度各務同窓会代表委員会報告」をご覧ください。同窓会報は今年度約1万4千部を発行しました。同窓会長賞表彰は平成19年度から始めた事業で、毎年卒業式懇親会席上で成績優秀者を顕彰しています。今年3月に表彰された卒業生は6名です。9頁を見て下さい。寄付金は10月31日付で287件、3,437,000円集まりました。寄付者は別表に掲載するとともに、お礼申し上げます。使用内訳は就

職支援用のパソコンや表彰記念品などです。寄付金の募集は今年も継続しています。一方岐阜大学では各務同窓会とは別に基金創設のため募金を募っていますが、同窓会を優先し、ご協力いただければ大変助かります。

代表委員会では毎年支部の見直しをしています。新支部として中国広西大支部の設立を認めました。ブラジルに引き続き2つ目の海外支部です。しかし連絡の着かない支部があります。この場合不明支部とし、会報に記載し1年間連絡を待ちます。連絡がない場合代表委員会で支部の抹消手続きをとることにしています。現在昨年に引き続き「栃木支部」と「愛知各務獣医同窓会」と連絡が途絶えています。2支部の支部長、役員あるいは会員の方は支部抹消を避けるために是非事務局

までご一報下さい。

数年来議論してきました岐阜大学同窓会連合会は、5月31日（日）開催の代表委員会で一部に異論は出たものの基本的には各務同窓会は参加する方向で了承を得ることができました。翌6月1日（月）には岐阜大学卒業生が設立している6つの同窓会（各務同窓会、教育学部同窓会、工業倶楽部、医学部同窓会、看護学科同窓会、森の会）の代表者が一堂に会し、岐阜大学同窓会連合会を設立しました。連合会の初代会長は互選により各務同窓会の後藤悦男会長が選ばれました。就任挨拶で後藤新会長は、岐阜大学同窓会連合会は各学部同窓会の独自性・独立性を基本にした極めて緩やかな連携組織であること、また運営経費は各同窓会には割当を求めないことを強調し、

連合会の運営に当たって行く方針を述べました。連合会設立に至るまで、設立準備委員会の工業倶楽部の会長と専務理事に大変ご尽力をいただいたことを付記します。同窓会連合会の設立趣意書および会則は各支部代表には配布してありますので、興味ある方は支部長に連絡して下さい。連合会設立を記念して、9月5日（土）に記念式典と祝賀会が医学部キャンパス内で簡素に行われました。連合会の活動は岐阜大学のホームページで見ることが出来ます。

各務同窓会のホームページは随意更新しています。一度ご覧になって下さい。

最後に卒業生皆様のご健康とご活躍を祈念いたします。

平成二十一年度各務同窓会代表委員会報告

平成二十一年度各務同窓会代表委員会は五月三十一日(日)十二時三十分からホテル330グラウンデ岐阜で開催されました。今年は、全国からの代表委員の方々の交通の便を考えて岐阜駅から徒歩数分の会場での開催といたしました。さわやかな晴天にも恵まれ、「杜の中の駅」と称される新装間近の岐阜駅前に驚かれた代表委員の方もおられました。

代表委員会には、北海道から高知県まで三十五支部の三十九名の代表委員の方々に加えて、役員および幹事など十六名を合わせて五十五名に参加いただきました。

代表委員会は後藤悦男会長の挨拶で始まり、平成二十一年度の幹事長、幹事ならびに監事の紹介の後、阿閉泰郎幹事長から就任の挨拶がありました。続いて、議長に村山巖氏(E大23)が選出され、議案を検討しました。

第一議案は平成二十年度事業・決算報告及び会計監査報告で、鈴木文昭前幹事長から資料に基づき事業報告説明が行われた。決算報告は土井守前会計幹事が行い、適切に執行され会計監査が終了されたことの報告があり、審議の結果、原案通り承認された(4頁参

照)。第二議案は平成二十一年度事業計画で、海野年弘幹事から説明があり承認された。同窓会報(第90号)は十一月発行予定である。第三議案は平成二十一年度予算で、柳瀬笑子幹事から資料に基づき説明があり、審議の結果、原案通り承認された(4頁参照)。第四議案の役員改選は、平成二十一年度各務同窓会役員のうち生田徳男氏から小森利八郎氏への交替が紹介された後、承認された。第五議案は岐阜大学同窓会連合会についてで、設立趣意書に基づいて説明の後、北海道支部や石川県支部などから支部での意見が紹介され、活発な意見交換がなされた後、設立を承認すると共に、各務同窓会から後藤悦男会長を会長として推薦することとした。上記の議案のほか、海外支部として中国広西

大学支部設立が承認され、不明支部の取り扱いについてはさらに一年をかけて当該支部会員からの意向を再調査することが承認された。以上が平成二十一年度各務同窓会代表委員会の概要ですが、詳細については各支部代表委員にお

尋ね下さい。

最後に名誉会長の小見山章学部長の挨拶がありました。大学法人化後の第一期中期計画最終年をむかえ、応用生物科学部は教育面・研究面で一定の高い水準での評価を受けて第二期目の中期計画の立案に取り組んでいること、各務同窓会から応用生物科学部への多大な寄付をいただいたことへの御礼と有効活用状況についての報告、加えて岐阜大学六十周年記念行事など、各務同窓会からのご支援に対する感謝の意が述べられました。



平成20年度支部総会開催状況

支 部 名	期日	出席者
農芸化学知多	20. 5.11	山内 亮
愛知県各務会	20. 5.17	松本 康夫
各務同窓会高校部会	20. 5.21	河合 啓一、向井 譲
岐阜	20. 6.15	柵木 利昭
愛知県高等学校教員	20. 6.21	丸尾 幸嗣
富山県	20. 6.28	大橋 英雄
長野北信	20. 7.12	柵木 利昭
石川県	20. 7.12	鈴木 正嗣
愛知県職林務関係同窓会	20. 7.25	木村 正信
飛騨	20. 8.31	小見山学部長
岡山県	20.10. 4	天谷 孝夫
愛知県職農業関係同窓会	20.10.17	川島 光夫
V科三重県	20.11. 9	柳井 徳磨
江南濃	20.11.14	木村 正信
中濃	20.11.15	松本 康夫
東京E科会	21. 2. 7	天谷 孝夫
岐阜市役所	21. 2.18	深田 恒夫
東海農政水機構	21. 2.25	板垣 博
岐阜県職	21. 2.28	小見山学部長、会長、阿閉泰郎、福井博一、千家正照、川島光夫
三重県	21. 3. 7	土井 守
岐阜大	21. 3.19	会長、副会長

平成21年度岐阜大学各務同窓会役員

名誉会長	小見山 章	
会 長	後 藤 悦 男	(V大 2)
副 会 長	矢 井 治 夫	(A大 7)
	清水 正 巳	(F大10)
	水 野 隼 人	(C大15)
	林 金 吾	(V大15)
	荒 井 睦 夫	(E大 8)
	小 森 利八郎	(N大10)
	鶴 見 昇 三	(P大 1)
相 談 役	杉 山 幹 夫	(M 1)
	岩 井 威 道	(V大 1)
	新 藤 秀 逸	(SP 21)
	中 村 孝 雄	(N大 7)

平成21年度幹事長・幹事及び監事

幹事長	阿 閉 泰 郎	(V大25)
幹 事	(庶務・幹事長代理) 福 井 博 一	(MA12)
	(事 業) 海 野 年 弘	(V大35)
	(会 計) 柳 瀬 笑 子	(R大 5)
監 事	鈴 木 文 昭	(C大23)
	土 井 守	(P大14)

各務同窓会報

平成 20 年度各務同窓会決算報告

自平成 20 年 4 月 1 日 至平成 21 年 3 月 31 日

1. 一般会計 2. 基本金特別会計 3. 資産現在高 4. 資産保管状況

1. 一般会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 会費	2,390,000	1,963,900	△ 426,100
入会金	2,250,000	1,820,000	△ 430,000
年会費	140,000	143,900	3,900
2. 利子	2,413	3,022	609
3. 雑収入	540,000	553,388	13,388
4. 基本金特別会計より繰り入れ	2,800,000	2,800,000	0
当期歳入合計 (A)	5,732,413	5,320,310	△ 412,103
前年度繰越収支差額	481,587	481,587	0
歳入合計 (B)	6,214,000	5,801,897	△ 412,103

(2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 事務費	2,191,000	2,080,353	△ 110,647
消耗品費	10,000	2,415	△ 7,585
人件費	1,800,000	1,762,008	△ 37,992
通信費	30,000	57,620	27,620
旅費	36,000	36,000	0
終身会費返金	300,000	220,000	△ 80,000
雑費	15,000	2,310	△ 12,690
2. 会議費	1,060,000	872,692	△ 187,308
代表委員会費	50,000	34,602	△ 15,398
代表委員会旅費	1,000,000	838,090	△ 161,910
役員会費	10,000	0	△ 10,000
3. 事業費	2,110,000	2,008,965	△ 101,035
会報等印刷費	700,000	555,250	△ 144,750
会報郵送費	900,000	870,272	△ 29,728
雑費	450,000	524,705	74,705
ホームページ管理費	10,000	10,000	0
同窓会長賞費	50,000	48,738	△ 1,262
4. 名簿関係費	10,000	7,450	△ 2,550
発送費	10,000	7,450	△ 2,550
5. 慶弔費	100,000	26,880	△ 73,120
6. 支部総会派遣費	500,000	354,060	△ 145,940
7. 卒業・修了祝賀会賛助費	150,000	150,000	0
8. 予備費	90,000	92,180	2,180
当期歳出合計 (C)	6,211,000	5,592,580	△ 618,420
当期収支差額 (A)－(C)	△ 478,587	△ 272,270	206,317
次期繰越収支差額 (B)－(C)	3,000	209,317	206,317

2. 基本金特別会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 終身会費	4,540,000	3,630,000	△ 910,000
新入生分	4,500,000	3,620,000	△ 880,000
卒業生分	40,000	10,000	△ 30,000
2. 85周年記念事業会返金	1,000,000	1,000,000	0
3. 雑収入	0	0	0
4. 利子	190,352	228,329	37,977
当期歳入合計 (A)	5,730,352	4,858,329	△ 872,023
前年度繰越収支差額	69,695,648	69,695,648	0
歳入合計 (B)	75,426,000	74,553,977	△ 872,023

(2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 一般会計へ繰入	2,800,000	2,800,000	0
2. 振込料	5,000	0	△ 5,000
3. 85周年記念事業会事業費として貸出	—	—	0
4. 85周年記念事業会援助費	800,000	800,000	0
当期歳出合計 (C)	3,605,000	3,600,000	△ 5,000
当期収支差額 (A)－(C)	2,125,352	1,258,329	△ 867,023
次期繰越収支差額 (B)－(C)	71,821,000	70,953,977	△ 867,023

3. 資産現在高

(単位：円)

項目	年度始現在高	現在高
1. 一般会計	481,587	209,317
2. 基本金特別会計	69,695,648	70,953,977
合計	70,177,235	71,163,294

4. 資産保管状況

(単位：円)

項目	一般会計	基本金会計
1. 現金	1,336	
2. 普通預金		
大垣共立銀行	691	
十六銀行	168,588	1,896,061

中央三井信託銀行		2,293,328
三菱UFJ信託銀行		2,171,940
郵便局	38,702	
3. 定期定期貯金		
大垣共立銀行		9,570,389
十六銀行		21,755,097
三菱UFJ信託銀行		6,000,000
中央三井信託銀行		21,000,000
4. 振替貯金	0	0
5. 貸付信託		
中央三井信託銀行		0
三菱UFJ信託銀行		5,470,000
6. 金銭信託		
中央三井信託銀行		0
三菱UFJ信託銀行		797,162
合計	209,317	70,953,977
総計		71,163,294

平成 21 年度各務同窓会予算

収支予算書（平成21年4月1日～平成22年3月31日まで）

1. 一般会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	予算額	前年度予算額	差異
1. 会費	2,380,000	2,390,000	△ 10,000
入会金	2,240,000	2,250,000	△ 10,000
年会費	140,000	140,000	0
2. 利子	3,683	2,413	1,270
3. 雑収入	540,000	540,000	0
4. 基本金特別会計より繰り入れ	3,100,000	2,800,000	300,000
当期歳入合計 (A)	6,023,683	5,732,413	291,270
前年度繰越収支差額	209,317	481,587	△ 272,270
歳入合計 (B)	6,233,000	6,214,000	19,000

(2) 歳出の部

勘定項目	予算額	前年度予算額	差異
1. 事務費	2,186,000	2,191,000	△ 5,000
消耗品費	10,000	10,000	0
人件費	1,800,000	1,800,000	0
通信費	30,000	30,000	0
旅費	36,000	36,000	0
終身会費返金	300,000	300,000	0
雑費	10,000	15,000	△ 5,000
2. 会議費	1,260,000	1,060,000	200,000
代表委員会費	250,000	50,000	200,000
代表委員会旅費	1,000,000	1,000,000	0
役員会費	10,000	10,000	0
3. 事業費	2,110,000	2,110,000	0
会報等印刷費	600,000	700,000	△ 100,000
会報郵送費	900,000	900,000	0
雑費	550,000	450,000	100,000
ホームページ管理費	10,000	10,000	0
同窓会長賞費	50,000	50,000	0
4. 名簿関係費	10,000	10,000	0
発送費	10,000	10,000	0
5. 慶弔費	50,000	100,000	△ 50,000
6. 支部総会派遣費	400,000	500,000	△ 100,000
7. 卒業・修了祝賀会賛助費	150,000	150,000	0
8. 予備費	50,000	90,000	△ 40,000
当期歳出合計 (C)	6,216,000	6,211,000	5,000
当期収支差額 (A)－(C)	△ 192,317	△ 478,587	286,270
次期繰越収支差額 (B)－(C)	17,000	3,000	14,000

2. 基本金特別会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	予算額	前年度予算額	差異
1. 終身会費	4,500,000	4,540,000	△ 40,000
新入生分	4,480,000	4,500,000	△ 20,000
卒業生分	20,000	40,000	△ 20,000
2. 85周年記念事業会返金	0	1,000,000	△ 1,000,000
3. 雑収入	0	0	0
4. 利子	230,023	190,352	39,671
当期歳入合計 (A)	4,730,023	5,730,352	△ 1,000,329
前年度繰越収支差額	70,953,977	69,695,648	1,258,329
歳入合計 (B)	75,684,000	75,426,000	258,000

(2) 歳出の部

勘定項目	予算額	前年度予算額	差異
1. 一般会計への繰入	3,100,000	2,800,000	300,000
2. 振込料	5,000	5,000	0
3. 85周年記念事業会援助費	0	800,000	△ 800,000
当期歳出合計 (C)	3,105,000	3,605,000	△ 500,000
当期収支差額 (A)－(C)	1,625,023	2,125,352	△ 500,329
次期繰越収支差額 (B)－(C)	72,579,000	71,821,000	758,000

学園だより

課程等の近況

◆食品生命科学課程

同窓生の皆様には、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

食品生命科学課程の近況をご報告いたします。本年3月、本課程として第2回の卒業生92名を送り出し、そのうちの45名(他大学大学院進学者6名を含む)が修士課程に進学しました。大学院修士課程では、生物資源利用学専攻の最後の40名を送り出し、そのうち10名が博士課程に進学しました。昨秋の経済危機から、来年度の本課程卒業生および大学院修了生の就職活動は困難を極めておりますが、同窓会会員各位の一層のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

一方、本年4月には、本課程の新入学生90名(3年次編入学生5名を含む)と、大学院資源生命科学専攻に48名を迎え入れました。少子化に伴う入学試験倍率の低下が本課程の入試にも押し寄せております。入学志願者増のために、お知り合いの方のご子弟にも、ぜひ食品生命科学課程をご紹介いただきますようお願い申し上げます。

教員の移動につきましては、新規採用として後藤剛助教(機能性食品科学)が本年4月に着任されました。これで本課程の教員は食品科学コースが14名、分子生命科学コースが15名となり、教育研究体制がほぼ整ったこととなります。分子生命科学コースの大橋英雄教授(細胞成分利用学)は本年度

末をもって定年退職予定です。先生は、旧林学科、旧生物資源利用学科として食品生命科学課程と、長年にわたって教育研究にご貢献いただきました。なお、昨年に引き続き、高見澤一裕教授は連合農学研究科長、金丸義敬教授は応用生物科学部副部長として重責を担っておられ、鈴木文昭教授は教学委員長として活躍されております。

末筆ながら、同窓生の皆様の益々のご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。(山内 亮)

◆生産環境科学課程

平成21年4月より課程長を拝命いたしました千家です。どうかよろしくお願い申し上げます。

生産環境科学課程の近況をご報告申し上げます。本年3月、本課程から94名が卒業し、うち36名(他大学大学院を含む)が修士課程へ進学しました。修士修了生は45名で、うち11名が博士課程へ進学いたしました。一方、本年4月、本課程では新入学生91名(3年次編入学生5名を含む)、また大学院生産環境科学専攻には42名を迎え、活発な教育研究がおこなわれています。

昨年度の学業優秀者として、学部卒業生から、久田重太君が学長表彰、田崎麻衣子さんが学部長表彰、後藤佳恵さんが同窓会長表彰を、修士課程修了生から、吉村友里さんが学長表彰、中山広之君と青木八一郎君が研究科長表

彰、大槻陽平君と宝音徳力格尔君が同窓会長表彰を、それぞれ受賞されました。また、本年6月の開学記念日に、同じく学業優秀者として、直井聡君が表彰されました。

次に、教員の動向についてお知らせいたします。

応用植物科学コースは、11名の教員からなり、コース長は田中逸夫教授です。本年3月に古田喜彦教授と堀内孝次教授が定年退職されました。両先生の長年にわたるご貢献に感謝申し上げます。また、新進気鋭の久保田真由美助教が退職されました。一方で、本年4月に「植物分子生理学」分野の准教授として山本義治氏が着任し、今後の活躍が大いに期待されます。また、本年度は、「遺伝育種学」分野の助教を採用する予定であります。管理運営面では、福井博一教授が副学部長として「企画・評価」分野を担当し、学部の第二期中期計画の立案や広報活動など学部の発展に尽力しております。研究面では、昨年6月に田中逸夫教授が生態工学学会学術賞(光環境制御による植物の成長および形態形成の調節に関する研究)、9月に福井博一教授が日本生物環境工学会論文賞(トレニア属の種間交雑親和性と系統分類との関係)、11月に安部淳教授が中国物流学会第七回中国物流学術年會三等賞(中国鲜活農産品流通中農民販銷戸的形成及其功能)をそれぞれ受賞されました。

応用動物科学コースは、9名の教員からなり、コース長は吉崎範夫教授です。昨年度、京都大学教授として転出しました村山美穂准教授の後任として、「動物分子遺伝学」分野の准教授

が近く着任する予定であります。研究面では、昨年9月に楠田哲士助教が第14回日本野生動物医学学会大会ベストプレゼンテーション賞(雌雄アフリカゾウの幼齢期から繁殖活動期に至る生殖内分泌と行動の変化について)を受賞されました。また、本年6月の開学記念日では、教育研究面に多大な功績があった土井守教授が表彰されました。

環境生態科学コースは、17名の教員からなり、コース長は清水英良教授です。小見山章教授は学部長として大学および学部の管理運営の重責を担っております。宮川修一教授は昨年度に引き続きフィールド科学教育研究センター長として付属施設の運営を担っております。また、向井讓教授、松本康夫教授がそれぞれ入試委員長、大学院委員長として活躍されております。

末筆ながら、同窓生各位のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。(千家正照)

◆獣医学課程

獣医学課程の現況をお知らせします。3月実施の獣医師国家試験では、久しぶりに受験者全員が合格しました。継続されることを願います。卒業生の進路は、地方公務員が増え(42%)、次いで小動物臨床(32%)でした。求職は産業動物や地方公務員を中心に順調ですが、この分野の獣医師不足を反映しているようです。優秀卒業生として、獣医師会長賞・前田真吾君、学部長表彰・河辺良明君、同窓会長表彰・橋本直行君が選ばれ、在学生は大塚由沙美さん(4年生)が学長表彰されました。

教員の動向は、獣医病理学研究室の柵木利昭教授が3月に定年退職されました。長年の功績に感謝します。4月に病理学研究室酒井洋樹助教と微生物学研究室大屋賢司助教が准教授に、8月に内科学研究室前田貞俊准教授が臨床放射線学研究室教授に昇任しました。7月に動物病院教授に鷲巢誠氏が着任しました。解剖学研究室斎藤正一郎准教授が9月からオーストラリアに留学し、内科学研究室大場恵典准教授が7月から北海道へ内地留学しています。

文部科学省の戦略的大学連携支援プログラムに、鳥取大学、岐阜大学、京都産業大学で申請した「獣医・動物医科学系教育コンソーシアムによる社会の安全・安心に貢献する人材の育成」が採択されました。また、岐阜大学の第2期中期目標・中期計画に「獣医学教育においては鳥取大学との教育課程の共同実施をめざす」とあります。今後は連携を通じて獣医学教育の充実を図るべく努力します。獣医学教育の改善は、「戦略的大学連携支援プログラム」や「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」等を通じて徐々に進んでいます。いっぽうで大学運営経費や人件費削減はまったなしで進行しています。岐阜大学の獣医学課程は、激動する状況にしたがに対応することを迫られています。皆様のご支援・ご鞭撻をお願いいたします。(北川 均)

◆連合農学研究科

卒業生の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。本研究

科は、平成3年の設置以来18年が経過しました。平成20年度の学位授与者数は課程博士25名（外国人留学生17名）と論文博士5名（外国人0名）でした。その結果、この間の学位授与者数は課程博士57名（外国人留学生250名）と論文博士130名（外国人18名）になりました。平成17年度からの信州大学の学生募集停止と平成18年度からの静岡大学の一部教員の創造科学技術大学院への移行による募集停止にもかかわらず、入学生は定員16名に対して24名となっており、平成3年以来、定員を大幅に超えた入学が続いていますので、平成22年度から入学定員を20名にいたしました。平成22年度からは教育カリキュラムをこれまでのゼミナール制から単位制へ変更してより優れた教育体制とします。合わせて、講座編成を少し変更し、生物資源化学講座をスマートマテリアル講座として、ICEMS

領域の若手研究者を養成することになります。今後とも、連合農学研究科の発展のためにご指導とご協力をよろしくお願いいたします。

（高見澤一裕）

◆大学院連合獣医学研究科

卒業生の皆様には、ますますご健勝でご活躍のことと存じます。平成20年度の本研究科の学位記授与者は29名で、この数年、他国立大学法人等の獣医学研究科の中では群をぬいて多くの研究者育成に貢献しております。平成21年度からは、懸案でありました入学定員数も15名から20名に増員が認められました。これも本研究科のこれまでの実績に裏付けられたものであり、先輩

諸氏のこれまでの努力に感謝する次第です。また、本年度からは、第4番目の連携機関として中央競馬会競走馬総合研究所が本研究科に加わり、大学院の教育と研究に参加していただいております。

平成20年度には文部科学省の大学院教育改革支援プログラム（大学院GP）「グローバル化に向けた実践獣医学教育の推進」が採択され、昨年10月より本事業を展開しております。本プログラムは大学院教育の実質化を推進するものですが、本研究科では、科学英語や科学コミュニケーションの履修科目の追加や海外研修制度の整備など国際化に向けた対応を行っております。こうしたプログラムの採択を機会に、世界に開かれた大学院教育を推し進めたいと考えております。今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

（石黒直隆）

◆附属岐阜フィールド科学研究センター

各務同窓会員のみなさまにはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

附属岐阜フィールド科学研究センターは、大場、石田両専任教員、森本、細江、加藤、都竹各部門技術長の下、応用生物科学部学生対象のフィールド科学ならびに同実習などはもとより、他学部対象のフィールド科学概論や教育学部対象の栽培学の開講、あるいは学外の方への公開講座、各種見学対応などに活発な活動を続けております。本年度も農場においては、「家

庭菜園の基礎 理論と実際」「食と緑と命の学校」、演習林においては「木の名前をおぼえよう」などの講座を企画、開催中です。

本年1月からは、卒業生の矢野倫子さんが農場技術職員として勤務を始めました。演習林では3月末日に定年退職された技術職員青木達雄さんに替わり、4月より青木将也さんが着任しました。また農場では障害者就労支援の一環として1名の方が技術職員とともに働いているほか、新たにボランティア受け入れ制度を設け、2名の方に来ていただいています。

今後とも同窓の皆様方のご協力ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

（宮川修一）

◆動物病院

卒業生の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

大学附属動物病院の使命は、臨床教育、診療活動、先端的臨床研究の3つを実践することにあります。動物医療水準の向上により教育内容が高度化し、開業医からの紹介は腫瘍疾患など診断や治療の難しい症例が主となり、診療件数も急増しています。老朽化かつ狭隘な現施設ではこれらに対応できなくなつたため、今年度RC造2階建て約1,100㎡の新病院を建設します。また現施設を22年度に改築する予定です。新病院は時代にマッチした診療室や手術室を備え、特に国立大学では初めてとなるリニアック型放射線治療器を導入して腫瘍診療部門を充実します。

しばらく空席となっていた病院専任教員には、前日本獣医生命科学大学から鷲巣誠教授が7月に着任しました。鷲巣教授の専門は循環器や肝臓などの軟部外科と東洋医学です。動物病院には他に兼任教員12名、研修医3名、動物看護師6名、技術職員1名、事務職員3名が従事しています。スタッフ一同さらなる挑戦を続けます。ご理解とご協力のほどお願いいたします。

（鬼頭克也）

◆野生動物管理学研究センター（旧野生動物救護センター）

各務原同窓会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

おかげさまで当センターの事業も、昨年度通知の岐阜大学「平成19年度に係わる業務の実績に関する評価結果（国立大学法人評価委員会）」において、官学連携融合事業の注目事項として列挙されました（同評価委員会による全国レベルの総括でも「地域連携・地域貢献・国際交流の推進の具体的取組事例」の一つとして例示されています）。これも同窓生の皆様のご支援によるものであり、改めて御礼申し上げます。

さて、上記のとおり外部からの認知度も高まっている当センターではありますが、フィールドに目を転じれば、野生動物を取り巻く状況は急激に変化しております。とくに近年、「ニホンジカやカワウによる植生破壊や農林水産業被害の激化」や「野鳥からの検出が続く鳥インフルエンザウイルス」等、かつては想

定されていなかった問題が次々と発生しています。そのため、教育研究のみならず社会への貢献度を強化するためには、「傷病鳥獣の救護」から更に一歩進めた野生動物対応が不可欠になりつつあります。

そこで当センターは、岐阜大学が培ってきた野生動物管理に関わる包括的な教育研究力と従来からの野生動物救護活動とを発展的に統合させ、本年4月1日付けで「野生動物管理学研究センター」を発足させました。新体制では、食品生命科学課程と生産環境科学課程の教員も運営協議員・併任教員として加わり、内部には「野生動物医科学部門」と「生息域管理部門」の2部門を設けました。これは、応用生物科学部が有する「野生動物管理」ならびに「生物多様性保全」に貢献し得る知と技術の集結にほかなりません。もちろん、岐阜県と共同で進めている傷病鳥獣救護も、「野生動物救護室」において従来通り継続しております。

また、新たに岐阜県と岐阜大学による「環境連携事業」として、「岐阜県野生動物管理ネットワークシステムの構築」も提案しているところです。本年8月には、東海農政局、三重県、全国山村振興連盟三重県支部、三重県市町村林野振興協議会との共催で、「平成21年度日本まんなか獣害対策シンポジウム」を企画開催させていただきました。このような活動を通じ、本センターを「中部日本における包括的な野生動物管理と研究の拠点」として発展させるべく努力を続けておりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

（鈴木正嗣）

新任教員のあいさつ

山本 義治

平成21年4月1日付けで応用生物科学部に准教授として着任いたしました山本と申します。専門は植物の「葉緑体学」、と植物ゲノム科学です。

私は京都で生まれ育ち、大学院生の間は札幌、その後米国コネチカット州のニューヘブン、和光、横浜、名古屋、と転々として来ましたが、縁あって岐阜大学にお世話をすることになりこの春に晴れて岐阜市民となりました。私の経験からいうと転居する度にいろんな記憶が分断される傾向があるようです。たまに関西の実家に在の友人に会って話をすると、古い話を細かく覚えてゐるのには驚いてしましますが、私の場合は記憶が飛び飛びになってしまっているだけではなく、5年前の出来事と10年前のだけを逆転して覚えているような場合も頻繁にあります（いわゆるシャフリングですね）。時々辻褄の合わない行動をとってしまうのはそのせいかも知れません（冗談ですが）。白い霧の中で生きてる山本



平成21年4月1日付けで、食品生命科学課程食品分子機能学研究室の助教に着任いたしました後

後藤 剛

です（これも冗談です）。

これまで岐阜市にはあまり縁がなかったのですが、住んでみてまず気がついたのは(1)市街地では高校生（と公務員）が目立つ、(2)言葉が名古屋よりソフトで耳あたりがよい、(3)堅実な名古屋人よりもさらさらと真面目で、(4)水郷?（Yes!）、(5)夏は暑い!!、といったところだ。岐阜城があんなところにあるのはとても不思議ですが（夜になると金色に光るのも不思議です）、どこからでも見えるおかげで道には迷わなくて済んでいます。今後はよりディープな岐阜を探っていきたいと決意する次第です。

大学では「植物分子生理学研究室」をお預かりすることになりました。研究活動を通じて大学のブランドイメージを上げる、という野望を持って日々活動しています。今後ともよろしく御指導御鞭撻の程お願いいたします。

藤剛と申します。歴史ある応用生物科学部の一員に加えて頂き、光栄に思うと同時に、その責務の大きさを痛感しております。

私はこれまで、京都大学大学院農学研究所において、食品成分による生活習慣病予防を目指し、肥満の成因である脂肪細胞の研究を行っておりました。脂肪細胞は近年にいたるまで、単なるエネルギーの貯蔵庫として認識されておりましたが、様々なホルモン・サイトカインの分泌を介して、生体全体のエネルギー代謝制御に積極的に関わっていることが明らかとなってきました。また、細胞を培養中に、脂肪滴を蓄積していくことによって形態が劇的に変化し、研究対象として非常に興味深く感じています。岐阜大学においても、脂肪細胞と生活習慣病の接点について、新たなアプローチが出来ればと思っております。

教育面に関しては、研究面以上に経験値に乏しく、未熟ではありますが、私は教育は大学教員にとって、研究と並んで重要な責務であると思っており、教育の重要性はしっかりと認識しているつもりです。熱意をもって、学生指導にあたり、その中で自分自身成長していきたいと思えます。

まだまだ未熟者ではありますが、岐阜

教員の異動

定年退職

H21. 3.31	生物生産科学講座植物生産科学教授 堀内 孝次
H21. 3.31	生物生産科学講座植物生産科学教授 古田 喜彦
H21. 3.31	獣医学講座応用獣医学教授 柵木 利昭
H21. 3.31	流域圏科学研究センター教授 秋山 侃

退職

H21. 3.31 獣医学講座臨床獣医学教授
宇塚 雄次
岩手大学へ
H21. 3.31 生物生産科学講座植物生産科学助教
久保田真弓

昇任

H20. 10. 1	生物環境科学講座生物環境工学教授 木村 正信
H20. 10. 1	生物環境科学講座生物環境工学准教授から 生物生産科学講座応用動物科学准教授 八代田真人
H21. 4. 1	生物生産科学講座応用動物科学助教から 応用生命科学講座環境分子科学教授 光永 徹
	応用生命科学講座 環境分子科学准教授から
H21. 4. 1	獣医学講座応用獣医学准教授 酒井 洋樹
H21. 4. 1	獣医学講座応用獣医学助教から 獣医学講座応用獣医学准教授 大屋 賢司
H21. 8. 1	獣医学講座応用獣医学助教から 獣医学講座臨床獣医学教授 前田 貞俊
	獣医学講座臨床獣医学准教授

採用

H21. 4. 1	生物生産科学講座 植物生産科学准教授 山本 義治 名古屋大学研究員から
H21. 4. 1	応用生命科学講座食品科学助教 後藤 剛 京都大学学振特別研究員から
H21. 7. 1	応用生物科学部附属動物病院教授 鷲巣 誠 日本獣医畜産大学から
H21. 8. 1	生物生産科学講座 応用動物科学准教授 松村 秀一 国際応用システム分析研究所 (IIASA) 研究員から

大学でお世話になることとなりました。微力ながら岐阜大学の研究・教育に貢献できるように、皆様のご指導・ご鞭撻を賜りながら、精一杯努力していきたいと思えます。どうかよろしくお願いいたします。



鷺巢
誠

日本獣医生命科学大学
から7月1日付で応用
生物科学部獣医課程附属
動物病院教授に着任した

おりましたがカリフォルニア大学デービス校の獣医学教育病院を旅行で訪れた時の日本文と米国の獣医学の格差の衝撃に打たれ、後先を考えずデービス校で大学院に入学してしまいました。PhDを取得後帰国して日獣大の教員となりましたがデービスでのリサーチラボの体験は日獣大における学生教育の基盤となりました。私の今までの研究・臨床は心肺機能の生理・病態生理を基盤としたものですが、ここ10年は肝臓の先天性血管奇形である門脈体循環シャントの研究でシャント血管走行と血行動態、アミノ酸代謝、肝性脳症、手術方法として食事療法などを検討してきました。

技術の発展により、出土した骨からDNAを取り出し増幅することや、野生動物の糞や毛などからDNA試料を得ることが比較的容易になりました。こうした情報を利用することで、現在絶滅の危機に瀕している動物種が過去にどこにどれだけ生息していたのか、分布を広げつつある移入種がいつどこかからどれくらいやってきたのかなどを推定することができます。同様に、ウシやウマ、イヌなどがどこどのようにに家畜化された世界中に広がったのか、その過程についても新たな光があてられるようになりました。

岐阜大学に勤めはじめてまだ2週間しか経っていないのですが、教職員の皆様方の真面目さと熱心さを強く感じ岐阜大学の力強さと発展性を感じる事ができました。動物病院は近隣の動物病院の2次診療施設として断固たる地位を確立していかなければなりません。そのためには動物病院における専門性および卒後研修システムの確立そして地域獣医師会とのコミュニケーションによる相互理解を高めていく必要があると考えられます。動物病院の発展が私の使命であると考えがなばっていく所存であります。

さいわいなことに、岐阜大学応用生物科学部には、様々な動物の生理・繁殖・行動等に関するエキスパートや、野生個体群の保全や絶滅危惧種の動物園等における繁殖で成果をあげられている方々がおられます。今後は、こうした方々と協力しながら新しい課題に挑戦し、学生たちとともに考え、学んでいきたいと思っています。まだまだ未熟者ですが、皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



松村 秀一

8月1日付けで生産環境科学課程応用動物科学コースの准教授として着任いたしました。私は、岐阜県のお隣り愛知県大山市にある京都大学霊長類研究所で約13年を過ごしたのち、国外での研究職を経て、本学に参りました。

退職後の近況

Green Research field 12

想いを馳せる

堀内 孝次

この3月末に退職してからほぼ5ヶ月が経った。だが生活のリズムはこれまでと全く変わりはない。朝6時起床で夜2時前後に就寝。学会の講演発表やシンポジウムでの話題提供、また自治体の市民講座講師やJICA国際シンポジウム（中国・北京）の基調講演と日中合同セミナーなどの講演発表準備や原稿作成に時間を取っている。その他、岐阜県や環境関連の財団法人の審議会や委員会の委員を務めており、また、偶には民間企業家からの植物生産技術関係についての相談依頼もある。NPOなどボランティアから勉強会での講師依頼も受けている。10月末まで日程が詰まっていた結構多忙だが、これらが活動の全てでは無い。私の人生哲学は、それらの活動行為と現場での現地調査と圃場での研究活動が一体化することを重要視している。この思想は在職中から変わることは無い。現場とは各地方の植物生産圃場や30年間以上の長きにわたって借用している私設の実験圃場（約700㎡）である。この畑地の栽培管理には家内も重要な手助けをしてくれるが、主体的には私が管理している。耕耘や中耕、除草、灌水、収穫などのままの創造的な研究と植物栽培を楽しむことが出来る。私はこの創造の源であるこの圃場と自宅の狭いが花々で満ちた小庭も含め、以前、Green Research Fieldという名称を付けた。最近、知人や岐阜大学の現役学生と研究室同窓生達に向けた

情報紙、News Letter “Green Research Field” を創刊し、私の想いを届けた。

これだけでも結構、仕事量は多い。それだけに家内と家事に必要な諸事を共にこなしている時が心身とも最もゆつくりすると感じている。

三五の糧に生きるつも

榎木 利昭

皆様方にはお変わりなくご清栄のことと推察申し上げます。

小生が昭和三十九年岐阜大学入学以来四十五年間、何かとご支援、ご指導、ご鞭撻いただきまことにありがとうございます。心より御礼申し上げます。

各種学会や獣医師会等からすべて退会し獣医とはまったく縁を切った生活を始めたが、心配していた「定年障害」は今のところ出ておりません（定年障害は定年期に職を失い、人間関係を失い、収入を失う等の喪失感に苛まれること）。平日は散歩一時間、料理二時間、庭木の剪定等庭弄り三時間、読書二時間とかなり規則正しい生活をして、土日は掃除、洗濯と買い物等専業主夫の仕事をするようにしています。月に二回料理教室に通い料理を楽しんでいます。これからは「獣医から樹医へと病理から料理へ」とカレ（加齢、華麗）なる変身を目指していきたいと思っています。

素浪人三五の糧に生くるとも

下天に見ゆるものは錦繡

これは市川厚一先生が世界で始めてター

ル癌を作ったときに詠んだ

世捨人三五の糧に生くるとも

鏡下に見ゆるものは錦繡

をバクッタ小生の今の心境というか、斯く有りたいたいと思いです。

皆様方のこれまでのご厚情に感謝申し上げますと共に、ご健勝をお祈り申し上げます。

退職記念事業終了の報告

生産環境科学課程応用植物科学コースの堀内孝次教授は、平成21年3月31日をもって定年退職されました。

堀内先生のご退職を迎えるにあたり、同年2月10日に「Field survey」に見る植物生産の夢と現実」と題した最終講義が、在校生、卒業生、本学教員などのご参加を得て行われました。これまでに先生が取り組んでこられた、微生物やアレロパシーを利用した植物生産や地力維持に関する研究についての興味深いお話を伺うことができました。また、先生には、お忙しいなか、研究室卒業生に向けた特別な講義資料も準備いただきました。講義終了後は、第一会議室で懇親会が開催され、最終講義に出席いただいた先生方や卒業生たちと歓談いただきました。平日常にかかわらず、多数の皆様にお集まりいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

同日夕刻には先生の教え子を中心とした研究室同窓会による「堀内孝次先生を囲む会」が、ホテル330グランデ岐阜において開催されました。研究室出身者だけでなく、堀内先生を慕う多くの人たちが集い、堀内先生と奥様に感謝の気持ちを表し、盛会のうちに終了いたしました。

末筆ですが、堀内孝次先生並びに皆様のご健康とますますのご活躍をお祈り申し上げます。

(松井 勤)

「榎木利昭先生」卒業を祝う会」事業報告

獣医学講座獣医病理学研究室の榎木利昭教授は、平成21年3月31日をもって定年退職されました。榎木先生のご退職に先立ち、関係者で「榎木先生のご卒業を祝う会」を結成し、榎木先生の退職記念事業を執り行いました。

記念事業としては、平成21年2月5日（木）101教室にて「比較病理学への小道…動脈硬化は家畜の病気である」と題する最終講義がありました。約110名の関係者が遠くは高知から参加されました。ご自身の様々な経験から、まずは教室の和が研究の発展には大切と論じられたのは印象的でした。講義終了後会議室にて榎木先生を囲み茶話会が開催されました。同級生の滝山昭先生（名古屋市開業）のご発声により乾杯し、昔話に花が咲きました。

5月31日にはJRC岐阜駅西のタワー43階の展望レストランで記念パーティが開催されました。卒業生、企業および近隣の先生方約80名のご参加をいただきました。ブラジルからの留学生中川夫妻による音楽演奏や43階からの大パノラマが印象的でした。最後に記念写真を撮り、来年の教室創立60周年記念会での再会を誓いながら散会となりました。

本記念事業を通じて榎木先生の地域に対する貢献の大きさに感じ入りました。今後は樹医として再出発されること、もう一花咲かされんことを祈ります。

(柳井徳磨)

会員、教員、及び旧教員の受賞

会員

下地 克己（E大10）

瑞宝双光章（平成20年11月3日）

原 隆男（A大9）

瑞宝小綬章（平成21年4月29日）

打田 穂積（V大5）

瑞宝双光章（平成21年4月29日）

塩見美香子（C大32）

猿橋貴（平成21年5月23日）

教員・旧教員

名誉教授 太田 勝一

准教授 安藤 弘宗

名誉教授 古田 力

故 四位 瑞宝小綬章（平成20年8月20日）

准教授 榎木 哲士

第14回日本野生動物医学大会

ベストプレゼンテーション賞

教授 榎木 博一

日本生物環境工学会 論文賞

名誉教授 金城 俊夫

瑞宝重光章（平成20年11月3日）

教授 榎木 光彦

日本エネルギー学会ハイオマス部会 ポスター賞

助教 平田 暁大

第25回日本毒性病理学会学術集会 最優秀賞

教授 榎木 光彦

第59回日本木材学会大会 優秀ポスター賞

助教 榎木 光彦

第59回日本木材学会大会 優秀ポスター賞

助教 榎木 光彦

第59回日本木材学会大会 優秀ポスター賞

助教 榎木 光彦

第59回日本木材学会大会 優秀ポスター賞

助教 榎木 光彦

第59回日本木材学会大会 優秀ポスター賞

助教 榎木 光彦

第59回日本木材学会大会 優秀ポスター賞

退職予定者のあいさつ

退職を迎えて

大橋 英雄



退職を迎えるにあたり、皆様方にご挨拶申し上げます。

現在、私がお預かりしている研究室の初代、樋口隆昌教授のご配慮と尽力、二代目の今村博之教授のご理解などがあって、岐阜大学に職を得ました。爾来、職員として41年、学生として6年、都合47年間、岐阜大学と応用生物科学部にはお世話になりました。関係の皆様へ感謝し、お礼申し上げます。

この原稿を前にすると、万感の思いが去来します。大学にも様々なことがありましたが、最大事は今村博之教授九州大学転出直後に迎えた大学の移転統合でした。各学部は手狭な各務原、長良、司地区から広い黒野地区に集結でき、いろいろな夢を追えるようになりました。

我が農学部においては、学生定員が210から200名へと横ばい状態が半世紀以上続く中、学科組織だけが、長い時間をかけて整備してきた6学科体制から、4学科体制へ、さらには3学科（課程）体制へと20年程の間に変わりました。ついには、学部名も農学から応用生物科学に変わりました。これらの変遷は現場の状況を精査しない

で事を考え、指示することの多い本省によるもので、現場は大変です。例えば、現在の3学科体制ですが、定員が85名を抱える課程（学科）が出現しま

した。この大きさは実験、実習を大切にする農学教育にはなじまず、成果をあげるに難しい規模です。応用生物科学部には他にも、多くの問題が山積みです。

食糧・食料や木材の自給率の低下に代表される、破綻した国の農林業を支えなくてはならない農学系学部の現状はこの有り様です。しかし、新しい政治の風が吹き始めたようです。教職員の皆さんには、局面は自分で変えるという強い心をもって、頑張っていたくようお願いします。

一方、個人の大学生活は終盤に至って薬を手放せない身体になってしまい、多少の心残りはございますが、全体を通してみれば、楽しく過ごさせていただいたと言ったのが、偽りのないところです。師、同僚、友、そして学生さんに恵まれました。特に、卒業論文、修士論文、そして博士論文作成に私どもの研究室を選んでもくれた、200名を超える学生さんには研究に精一杯努力してくれたとともに、沢山のパワーと成果をいただきました。皆さんに感謝するとともに、一層のご活躍を衷心より念じます。

最後に、岐阜大学、応用生物科学部並びに各務同窓会の一層のご発展と、教職員並びに会員のご健勝とご清栄を祈念申し上げて、退職の挨拶とさせていただきます。

大橋 英雄 教授
退職記念事業のお知らせ

食品生命科学課程分子生命科学コースの大橋英雄教授は平成22年3月31日をもって定年退職されます。

先生は、昭和44年に岐阜大学大学院農学研究科修士課程を修了され、ただちに岐阜大学助手に採用されました。その後、講師、助教授を経て、平成元年に教授に昇任されました。平成16年岐阜大学農学部の応用生物科学部への改組に伴い、食品生命科学課程の教授として教育研究に従事しておられます。この間先生は、一貫して植物の二次代謝成分、特にフェノール性化合物の単離・構造解析および生合成について研究され、植物化学分類学や植物生理化学の発展に大いに貢献されたとともに、樹木抽出成分化学を思考できる優秀な人材を育成し、社会に輩出されました。

学内においては、機器分析センター長、演習林長、入試委員長などの要職につかれ、本学の発展に貢献されました。また学外にあっては、日本木材学会理事および日本木材学会中部支部長を歴任され、全国大会や支部大会を開催されるなど学会活動への貢献、さらに東海地域生物系先端技術研究会企画運営委員会委員を務められるなど、地域の発展にも尽力されました。

この度、先生のご退職を迎えるにあたり、最終講義を来年2月5日（金）午後1時より、応用生物科学部101教室において開催いたします。また講義のあと、午後3時より、第一会議室において懇親会を開催する予定です。

皆様とともに、先生の最終講義を拝聴し、長年のご功績とご指導に感謝の意を表したいと存じます。多数の参加をお待ち申し上げます。

(光永 徹)

同窓会長賞受賞者

20年度も応用生物科学部および農学研究科の学生に同窓会長賞が授与されました。これは平成19年度より始まった制度であり、優秀な学生の日頃の努力を顕彰するものです。今年は各課程および専攻からの推薦を受けて次の受賞者が決定されました。受賞者には心からお祝いするとともに今後の益々のご活躍を期待いたします。

受賞者（敬称略）

食品生命科学課程・渥美 元規
生産環境科学課程・後藤 佳恵
獣医学課程・橋本 直幸
生物資源生産学専攻・宝音徳力格爾
生物生産システム学専攻・大槻 陽平
生物資源利用学専攻・吉田 文

渥美 元規

この度は、各務同窓会長賞という素晴らしい賞をいただき大変光栄に思っております。このような賞をいただけたのも、友人、先生方、また家族の大きな支えがあったからであるところから感謝しております。

岐阜大学での4年間は、本当にあっという間に過ぎて行ってしまうという苦しいことや辛いこともありましたが、それ以上にうれしいこと、楽しいことの連続でした。岐阜大学で学んだことを、これからの人生に生かせるよう努力していきたいと思えます。

同窓会長賞をいただいた感想

後藤 佳恵

この度は、同窓会長賞という素晴らしい賞をいただき、ありがとうございます。お世話になった先生方、先輩方、家族そして友人に心から感謝しています。

私は今、動物薬を扱う会社で働いています。学生の時とは全く違う環境にとまどうこともあります。しかし、4年間岐阜大学で生活し、学んで得た知識や経験を基礎として、これからも頑張っていきたいと思っています。

橋本 直幸

この度は同窓会長賞をいただき、誠にありがとうございます。私の獣医学科の6年間は好きだけ勉強に励み、好きさだけやりたいことをやり、大変幸せなものでした。それは岐阜大学という暖かい場所に集まった、心やさしい先生方と仲間に出会えたおかげです。また、長い間私を支えてくれた家族には感謝してもきれません。今後はいただいた恩を少しでも返せるよう、岐阜大学農学部獣医学科の卒業生として誇りを持って社会のために活躍していく所存です。

大学生生活を振り返って

大槻 陽平

この度は、同窓会長表彰を頂き大変

嬉しく思っています。私は研究室に配属されてから、中国内モンゴルの草原環境の修復に関して研究を進めてきました。その中で、現地調査のときは、文化の違い等から当初計画していた通りに調査が実施できず、研究の難しさを実感しました。しかし、そのおかげで、様々な経験を積むことができました。今回同窓会長表彰を頂いたことを誇りに持ち、また大学で経験した多くを糧にして、これからの人生に活かしていきたいと思っています。

生物資源利用学科に在籍して

吉田 文

通勤途中車窓から瀬戸内海を眺めれば、岐阜から遠く離れた所に来たことを実感するとともに、去年までの岐阜大での日々を懐かしく思い起こします。

再編成に伴い学科名は勿論、学部名も変わってしまいましたが、私の在籍した農学部生物資源利用学科は基礎から応用まで幅広い科学分野を網羅し、本当に多くのことを学ぶことができました。特に学部4年から修士課程に至る研究室での3年間は正気を疑うほどの実験漬けの毎日でしたが、ともにのたうち苦しむ仲間たちや先生方に支えられて今の自分があるのだと思っています。

あの頃のひたむきな気持ちを忘れずに、社会人として精進していきます。



吉寄基金

研究支援金

C19 吉寄 清己

私は年金にプラスしてアルファの収入がある。アルファは海外ボランティアに、最近岐阜大学に寄附している。

定年退職後は外国に出て、現地の人々と交流してみたいと思い、海外技術協力・日本シルバードボランティア（JSV）に塗料技術専門家として登録した。幸いにも中国の各地に何回も派遣されて79歳まで続いた。国際航空券はJICAが、中国内は国営企業が負担する。私はお金を使うことはなかった。しかし、派遣期間は長くなるので、自費で妻を同伴した。

私は中国国営企業の大卒エンジニアの技術知識を生かし、彼らと共同研究を行った。ねらいは、新製品開発の重要性を企業幹部に認識させること、もう一つはJSVを続けるために必要な、中国ノウハウを得ることにあった。私は英文の実験計画書を作成、エンジニアたちは実験担当、企業は設備と材料を提供した。成果は企業と私の共有である。エンジニアたちは、土曜日に働き、私は休日出勤手当を支払った。

応用生物科学部を定年退職された中村先生は、平成19年同窓会報に次のように述べている。昭和58年度の生物化学講座の歳入メモを見ると、現在の校費配分額は減少して、25年前の5分の1以下になっている。

2004年国立大学の法人化に伴い、国の交付金は年々減額されている。将来の学部を担う若い教員たちが使う研究費は少なく、学部の活力は徐々に低下するのではないかと河合教授は心配する。

私は戦争の真ただ中に農芸化学科に学んだ。昭和18年秋は学徒出陣。農学科・林業科の学生は、学業半ばで戦地に出征した。私は親しくしていた林学科の友と涙で別れ、彼の武運長久を祈った。農芸化学科の学生は徴兵延期になったが、授業期間は短縮され早期の卒業となった。私は卒業後技術知識の不足を何時も感じてきた。資源のないわが国は科学技術力でお金を稼ぎ、食料・原材料を購入、国民を養わねばならない。私は若い教員たちに十分な研究活動をしてもらいたい。そして、将来お金になる特許を出願願うのである。

吉寄清己研究支援金取扱規程は中村教授の協力を得てつくった。食品生命科学課程の助教・准教授から目玉研究を募集し、教授たちの推薦する一つのテーマに毎年100万円を寄附するのである。第一回目は矢部准教授、第二回目は柳瀬助教、第三回目は海老原助教に支援した。この制度は継続したいとおもっている。

吉寄研究

支援金のお礼

柳瀬 笑子

私は、第2回支援対象者として昨年度1年間ご支援を頂きました。研究経費上だけでなく、研究を続ける上で大変な励みとなりました。研究テーマは「ビルベリー由来アントシアニン類の精製法と化学修飾法の開発」です。ビルベリーとは、近年健康食品等で注目されているアントシアニン類を多く含む果物です。このテーマは、現在はその機能性がかなり注目されておりますが、各成分を

純粋にすることで機能性の発現メカニズムや更なる高機能性物質の探索・創作を目指しております。昨年度はアントシアニン中7種類の精密分離の開発を行いました。ここで得られた成果を生かしてさらに研究を進めていきたいと思っております。また本年5月末に吉寄氏がご来学された際には直接お会いすることができました。多くのご経験からの貴重なお話を伺い、特に特許取得の大切さについて改めて認識させていただきました。

最後になりましたが、吉寄清己氏のご厚意に対しまして、心より御礼申し上げます。

C19 吉寄清己研究 支援寄付金の 今年度受領者

吉寄清己氏（C19）のご厚志により設けられた本研究支援金も3年目になり、本年度の受領者は海老原章郎助教（酵素科学）に決定しました。なお、吉寄氏と奥様は5月21日に来学され、研究支援金を受領した教員と親しく懇談するとともに、氏のこれまでのご貢献に対して学部長から表彰状が送られました。この農芸化学の大先輩からの多大な研究支援に対しまして心より感謝申し上げます。

（食品生命科学課程

C大22山内 亮



支委会員からの便り

猿橋賞を受賞して

塩見美喜子（C大32）

第29回猿橋賞を受賞した。昨年11月に受賞候補者として応募して以来、公私共々忙しく、すっかり賞の事など忘れていた。

が、今年4月に入り、突然朗報が舞い込んだ。「女性科学者に明るい未来をのこす」の古在由秀会長より直々にお電話をいただいたのは、4月3日夜9時過ぎだったと記憶する。次の日は早朝からの出張で成田からフランスへ向かう事になっていたため、その準備と家事と娘（小学生5年生）の次の日の塾のテストの事で大わらわ、全ての事を滞りなく短時間で制覇する事だけに集中していた時だった。その真中にお電話をいただいたため、どのような会話であったか。「本年度の受賞は塩見さんに決定しました」と心温かく伝えてくださる会長にきちんとお礼を述べたか、無礼なく対応できたかどうか、非常に不安である。混乱のまま受話器をおろして支度にもどった。しばらくしてから主人（塩見春彦MC17）に「猿橋賞もらえる事になったみたい」とつぶやいたら、「えっ、それって、すごいんじゃない?」という返答だった。この言葉で、「すごい事なんだ」と実感した。しかし、それもつかの間。たかが塾のテストとはいえ、前夜、娘に十分な睡眠を与える事も親の大事な努めとばかり、支度もそぞろに娘と共に布団にもぐりこみ、寝むりにつかせた。

翌日、予定通りフランスへ。ロスコフでは発表と人々との交流に追われた。数日後学会が終わり、4月に予定されていた猿橋賞受賞の記者会見と5月の授賞式に想いを巡らせる事ができたのは、飛行機搭乗までの数時間で楽しんだパリ市内セーヌ河の遊覧船の上であった。密なサイエンスと英語とで疲れた心身には、どんなよりした曇り空と肌寒い空気とともに、近い将来起こりえるに思いを馳せる事は冷却剤として心地よく働いた。

高校・大学時代の私を知っているが、最近は今ひとつ、という方々は、さぞ驚かれた事だろう。本人が驚いたのだから全くもって致し方ない。学生時代の友人の一人は、「美喜ちゃんってそんなに勉強好きだったっけ」、とのたまわった。しかし、言い得て妙である。私は若い頃、学問・学習に集中できなかった。一生懸命勉強する事が自分にとってどう良いか、興味が持てないでいた。欲求が無いものには綺麗な物も色褪せてみえる。至って単純な事である。が、そんな私にも転機は訪れる。それは米国ペンシルバニア大学に所属した9年間といつて良いであろう。サイエンスを面白く感じ、同時に仕事の進め方、上手な手の抜き方、自信の持ち方、考え方が多くを学んだ。それまで日本で二十数年かけて得たものとは次元を異にするものがそこにはごろごろ転がっていた。人生、何時、何事がどの様に作用するかわからない。私のこの受賞が「スタートアップが遅くても大丈夫、間に合わない事はない」という若者へのメッセージになってくれれば良いと思う。

各務同窓会北海道支部

野村 憲一（E大18）

北海道支部では、5年前の総会において、これまで定めていなかった支部規約がつくられ、会費を徴収して支部運営していくこととし、新たな事務局体制がスタートしました。

その後は毎年、総会と懇親会を開催し、同窓生の親睦を図っております。総会終了後には、北海道内に在住の各務同窓会員80名あまり全員に、総会の報告や会費納入のお願いにかかる文書を、会員名簿などとともに送付しています。また4年前から支部慶弔規定を定め、会員の弔事にかかる供花の提供を行っております。

総会と懇親会は毎年札幌で開催しておりますが、出席者は会員数の2割以下で、特に例年若い人の参加が極めて少ない状況となっております。北海道内は広く、道東の中標津町や道南の江差町などに住んでおられる会員にとつては、札幌からそれぞれ約430 250kmなどと遠距離で、札幌まで出て来るのは大変なことだと思います。

しかしながら、多くの同窓生が顔を合わせ、懇親を深めて、北海道の中で各務同窓会の輪が広がっていかばと思っておりますので、これからは特に若い人も含めて沢山の人が参加していただけるよう努力していきたいと考えております。

なお、支部会費については、現在約半数の人に納入して頂いております。年々増加しております。また、会員の動向については、会員からの情報提供もあつて、大分整備されてきましたが、北海道支部

にかかる会員情報がありましたら、お知らせ願えば幸いです。

北海道は四季折々の美しい自然があり、また、おいしい農畜産物や海産物の宝庫でもあります。是非、北海道旅行にお出かけ下さい。お待ちしております。

（各務同窓会北海道支部 幹事）

アザリアの咲くとき

岩手支部 岡田 幸助（V大15）

私の現在、奉職している岩手大学は昭和24年に盛岡農林専門学校、盛岡工業専門学校、岩手師範学校及び岩手青年師範学校の4校が包括されて新制岩手大学が設置されました。今年は創設60周年になるのでその記念行事が色々行われました。

その一つとして表題の「アザリアの咲くとき」宮澤賢治と学友たち」の展示会を図書館で行い、私はその副委員長を務めました。宮澤賢治は岩手大学の卒業生で有名ですが、アザリアのことはご存知でしょうか「アザリア」は宮澤賢治を含む12人の学生たちで作った文芸同人誌の誌名です。アザリアは西洋ツツジまたはツツジ一般の英名です。岩手県花巻市出身の宮澤賢治のほか、山梨県韮崎出身の保阪嘉内、栃木県氏家出身の小菅健吉、鳥取県倉吉出身の河本義行（俳号緑色）が中心メンバーです。この展覧会では彼らが在籍した3年間を中心に、全国から資料を集め、また岩手大学図書館などにある資料も発掘して展示しました。その結果、当 はまだ誰も有名でなく、普通の学生で、彼らが真剣に論議して、お互いに切磋琢磨して、あのすばらしい短歌や俳句などの文芸作

品が生まれたことがよくわかりました。

彼らは農学や農芸化学を学ぶ理系の学生でありながら、文学、絵画、音楽、演劇、登山など幅広く学生生活を楽しんだことが伺えます。また読書家でありました。宮澤賢治は速読して内容を素早く理解したことが後輩の原戸藤一から証言されています。見学した学生からも「賢治たちはとても有意義に学生生活を送っていたのだ」と思った。青春とはこのようなものなのだと改めて感じた。賢治だけでなく、彼の周りのアザリアの仲間たちも優秀な人たちばかりで驚いた。彼らの後輩として頑張りたい。」と感想を寄せてくれました。見学者は総計2,081名で、いろいろ大変なことはありましたが、開催して良かったと感じています。

各務同窓会近畿・関西・兵庫支部の歩みと現状

兵庫支部（C大9）

直原 毅

阪神淡路大震災を機に同窓の皆さんの激励のもとに、再出発した兵庫支部も今年で14年、10月には第5回の総会を迎える。その節には大変お世話になり、ありがとうございました。

最新の名簿（H18.12）によると、兵庫支部の会員は254人（農専48人、大学169人、学科再編後37人、平均年齢は60才、新入会員も少なく、高齢化が進んでいる。ただ、最近、同窓会への出席者が総会の度に少なくなつて、支部の運営上支障を来しつつある。

この原因については、農専↓新制大学

各務同窓会報

(1949)、新校舎の移転(1982)、中でも、学科再編で農学、林学、農芸化学科等の廃止(1988)。大学の法人化で農学部の名称が消滅(2004)、女子学生が男子を上回る勢いで急増(2006)、愛知、岐阜、三重の地元3県の会員が70〜80%(2006)、一方で、最近の学生はブライバシー優先で、人との連帯意識、絆が非常に希薄になった。

寮生活の中で育まれた連帯感が、凜真寮瑞天寮の廃止(1981)等により、この伝統が絶たれた。私自身、寮生活を通じて多くの友が出来、寮での話題を通じて、先輩方ともお近づきになれる等、貴重な財産となっている。このような環境の大きな変化が大きいと考えられる。

私と各務同窓会の関わりは、S36年肥料会社に就職したが、毎年、先輩に連れられて①GA 近畿化学会(通称8(ハチハチ)会・C8・石高会長、事務局はC10・友好さん)に出席し、石高会長の名演説を聴くのを楽しみにしていた。この88会は当初C2・後藤、C3・阿形さん等肥料関係の人が中心の会で、毎年40〜50人が集まり盛会であった。その後、1990年代に農学部全体の②関西各務同窓会(C8石高会長、事務局M2久本秀夫さん)に再編、定期的に開催し、賑やかに寮歌を歌ったのを覚えている。

③旧兵庫支部(C7岡本会長)はもと、兵庫県庁と神戸市役所の人の懇親会的な会であり、兵庫県に転出した私は、出先の農試にいた関係で、1、2度出席した程度で、現在のような組織的な活動はしていなかったように思われる。

いずれにしても、同窓会には出来るだけ多くの人に出席頂けるように、みんなで工夫してみたい。本部の方でもご支援

方よろしくお願ひします。

徳島鳴門会近況

(企業で活躍する)

岐阜大学卒業生)

鳴門会会長 亀井 正治(MA3)

徳島県にはグローバル企業の一つである大塚グループ(大塚ホールディングス)があります。そこで活躍している岐阜大学農学部(現応用生物学部)の卒業生をこの機会に皆様にご紹介させていただきます。と思います。

まず一人はスポーツの後や二日酔いの時などに、皆様も一度はお口にしたことがあると思いますが、あの(ボカリスエツト)の開発を担当した農芸化学出身の柏計雄氏です。今ではアイソトニクック飲料の代名詞として位置づけられています。初めてお口にされた時には(何だこの水っぽい飲み物は?)と感じられ、衝撃的な印象を持たれたことと思います。このボカリスエツトは会社のイメージを上げるのみならず、破格の利益をもたらす、その功績で、彼は開発担当者の一人として、社長賞を受賞し、現在は大塚食品(株)の開発責任者(琵琶湖研究所所長)で執行役員として様々な機能性食品の開発を続けて活躍されておられます。

もう一人は獣医学部を出た菊地哲朗氏ですが、氏は会社の合成陣が、発した化合物のスクリーニング時にマウスの髪の毛の微妙な動きに着目し、何か特殊な作用性があると直観。研究を深められ、突き詰めた所、自律神経失調症に著効を示す化合物であることを発見し、世界的な医薬

品として仕上げられ、現在はUSA・EU並びに日本でアリビペラゾールとして発売し、副作用の著しく少ない、著効を示す医薬品であることから、多大なる貢献をされております。最近の医薬品開発にはコンピュータを駆使したドラッグデザインから機械的にセレクションされ作り出される時代の流れの中にあつて、氏の業績は開発当時USAのウオルストリートジャーナル紙では、人の目で動物の行動に着目して開発される最後の医薬品として紹介されておりました。彼も大塚製薬(株)のQS研究所の所長として新しい薬剤開発に奮闘されております。後輩達が後に続かれんことを念じつつ・・・。

東京E科現役会に

対する思い

林 春奈(S大15)

東京E科現役会は、農業工学科および生物生産システム学科の卒業生で農林水産省等中央官庁の本省庁に在籍したものを会員とし、会員相互の親睦を図るとともに学識を高め、あわせて母校の発展に寄与することを目的として平成12年に発足したものである。私は昨年、農林水産省職員となり東京E科現役会に入会させていただいた。偉大な諸先輩がいっしょの中で、このように筆を執らせていただけることに感謝している。

昨年、初任行政研修のある講義の中で、講師の方から「虫の目、鳥の目、魚の目を併せ持つて物事を見ることが大切だ」と教わった。ここでいう、虫の目は近くのものに注意深く見る目のこと、鳥の

目とは俯瞰する目のこと、魚の目は世の中の流れを敏感に感じる目をいう。私はこの言葉が記憶に強く残り、以降これら3つの目を常日頃から持つようにと心掛けていた。しかしこれらをバランスよく併せもつのはなかなか難しく、上司や同僚等から数々の助言や情報をいただく中で、バランスを保っている。このように「ヒト」から教わり「ヒト」と交流する中で、私は道を拓いているのだと思う。「ヒト」との交流で、得られるものは非

常に多い。当会には、現在津々浦々で活躍されている諸先輩がいっしょに、総会開催の際には得難いお話を伺うことも可能で、親睦を深める意義は大きい。昨年は総会が開催されていないが、今後学識を高め、お互いに切磋琢磨する有益な場として総会が設けられることを切に願う。

最後となるが、来年度入省を控えた学生がおり、新たにメンバーが増えることの報告を差し上げたい。

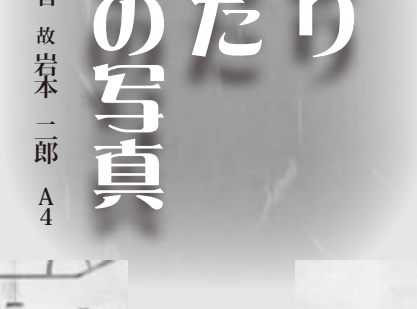
計 報

昨年11月の会報89号の発行以後、平成21年10月までに御逝去が確認された方は、次のとおりです。謹んで哀悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

V大15	森 田 宏
農業工学科	
E4	坂 内 恒 郎
E7	堀 江 克 守
E7	森 克 融
E7	森 融
E大2	栗 山 誠 之
総合農学科	
N大6	荻 野 龍 平
N大8	熊 澤 純 一
家禽畜産学科	
P大16	高 柳 宜 央
実務科	
SP6	山 内 豊 樹
SP6	山 田 一 良
SP11	小 林 弘
SP15	梅澤義一(福田)
農村工業専修科	
AT9	川合律子(吉村)
生物資源生産学専攻	
MB1	鷺 見 典 子
旧教員	
旧教員	長 澤 太 郎
旧教員	國 田 洋 次
旧教員	圓 山 八十一
旧教員	藤 原 三 夫

C11	館 友 定
C12	長谷川 健 三
C18	佐 藤 二 郎
C18	中 本 憲 治
C18	森 本 敬 一郎
C21	竹 下 昭 節
C22	森 脇 昭 三
C23	矢 代 重 男
C23	篠 田 国 重
M2	前 野 朝 恵
C大1	生 澤 典 宜
C大1	原 田 典 又
C大2	服 部 昌 彦
C大8	水 野 平 夫
C大12	河 村 武 弘
C大13	藤 村 武 弘
C大26	林 治 三
獣医学科	
V1	千 本 治 二
V2	丹 本 欣 美
V6	鈴 木 繁 充
V7	曾 我 光 右
V7	上 我 充 義
V9	千 葉 剛 俊
V大3	北 尾 俊 一
V大7	岩 根 正 三
V大9	上 甲 彰 夫

農学科	
A14	松 尾 宗 次
A15	門田正義(戸田)
A16	石 田 信 三
A17	松 下 聰 (大野)
A22	青 木 彬
A25	古川小左衛門
A大3	柴田重高(中野)
A大6	内 海 富海雄
A大15	榎本友子(杉山)
林学科	
F11	糟 谷 鈺 二
F13	小淵辰丙(石川)
F16	梅 本 喜 一
F20	池 田 嘉 弘
F21	大 野 弘 弘
F21	北田幸男(守田)
F21	黒 松 久 宣
F22	坂 東 多喜蔵
F24	松 山 道 夫
F4	坂 口 道 夫
F7	勝 野 金 雄
F大9	浅 野 孜
F大11	鳥 井 良 文
農芸化学科	
C8	奥 村 美 治
C9	中 村 清 数



卒業生より 提供された なつかしの写真

提供者 故岩本 二郎 A4

支部の廃止について

不明支部は代表委員会に報告するとともに各務同窓会報に掲載し、一年間連絡を待ちます。連絡が取れない場合は次年度の代表委員会で廃止を議論することになります。今年度の不明支部は以下の2つです。関係者の方はずいぶご連絡下さい。

「栃木支部」

「愛知各務獣医同窓会」

解散した支部
山 梨

新規設立した支部
中国広西大学

園田洋次先生を偲んで

本学名誉教授園田洋次先生は昨年来体調をくずされておりましたが、5月12日にご逝去されました。昨年6月に開かれた創立85周年記念式典及び祝賀会の際に研究室を訪ねられ、近況を元氣にお話されていたのがお会いした最後になります。急なご逝去の報に接し、病の無情さを痛感いたしました。享年78歳でした。

園田洋次先生は、昭和32年農学部助手として赴任され、昭和52年から平成6年3月までの間は教授として、学部長、研究科長をはじめとする要職を歴任され本学部の発展に大きく貢献されたことは皆様もご存知のことと思います。先生は、平成の改組で誕生した、旧農芸化学科を母体とする生物資源利用学科の初代主任として活躍されるとともに、一貫して土壌肥料学研究

圓山八十一先生を偲んで

圓山八十一先生は平成21年6月11日に、79歳でご逝去なされ、葬儀は近親者のみにて密やかに為されました。

先生は鳥取大学の前進である鳥取高等農林学校を卒業後、農林省家畜衛生試験場に奉職し、家畜臨床繁殖学を主な研究テーマとして活躍され、家畜衛生試験場において主任、室長を経て、昭和62年10月に岐阜大学教授に着任しました。平成元年10月から平成3年9月まで農学部附属家畜病院長に就任した後、平成4年3月末に停年退官されました。大学在職中は、家畜外科学教室の主任として家畜外科学講義等を担当され、優秀な多くの卒業生を送り出されております。

室、植物細胞工学研究室の主任として数多くの有能な人材を世に送り出されました。学外でも日本土壌肥料学会を中心とする学術活動に参加されるときも、リン酸化成肥料の物性、生理作用に端を発する肥料の開発研究、有用二次代謝産物の組織培養による生産など、民間企業とも活発に共同研究に取り組まれました。また、各務原の地下水の硝酸汚染問題に取り組み環境功労賞を授与されるなど、今日の最も重要な課題である環境保全に関する研究にも取り組まれました。まさに、農学の一つの方向性を体現されたのだと思います。本年は、奇しくも最後の農学研究科研究生を送りだす年でした。先生の農学部に対するご功績を噛み締めるとともに、ご冥福を心からお祈りいたします。合掌。

(小山博之)

研究面におきましては、農林水産省時代には家畜衛生の専門技術者として、JAICAより技術指導員として南米に派遣される等の活躍をなされております。本学に在職中は、先生の長年の繁殖理論を実証すべく、犬の子宮蓄膿症の発症機序について努力されておられました。

人の一万倍以上の嗅覚を有する動物を診察するため、教室員は紫煙が濃厚に立ち込める先生の居室になるべく立ち入らないように努めていたことを、草葉の陰で苦笑していることと思います。ここに、先生のご冥福を心からお祈り申し上げるとともに、生前のご厚情に感謝申し上げます。

(工藤忠明)

事務局からのお知らせ

同窓会会員の皆様には平素よりお世話になり、ありがとうございます。今年は例年になく雨が多い年となり、この原稿を書いておりました8月には各地で集中豪雨の被害が報道されました。同窓生の皆様におかれましては、お変わりありませんでしたでしょうか。

さて、昨年度より発足いたしました応用生物科学部寄附金制度には多数の同窓生からご協力をいただき、感謝申し上げます。今年度もこの制度を継続させていただきますので、同窓生の皆様には引き続きご寄付のお願いを申し上げます。下記の記入例をご参考に、同封の申込用紙を同窓会事務局までご送付ください。後日、応用生物科学部より寄附金の振込用紙を送付させていただきます。

また、同窓会の年次会費についてですが、平成16年度より年次会費の積算が2万円に達した皆様は、自動的に終身会員となる制度を実施しております。年次会員の皆様への今年度の会費振込用紙には、終身会員への切り替え差額が示されております。多額の皆様もいらつしやるかと存じますが、一括のご納入にご協力いただけますと幸いです。

同窓会では、多方面で活動されていらっしゃる同窓生の活躍をこの会報にて紹介したいと考えております。支部や会員の皆様からの情報のご提供や、ご寄稿を切望しておりますので、ぜひ同窓会事務局までお知らせください。また、同窓生のご活躍が新聞等で報道された場合には、事務局より原稿のご依頼をお願いすることがございますが、どうぞお引き受けただけですようお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員各位のご健勝を祈念申し上げます。今後の益々のご発展をお祈り申し上げます。

寄附金のお願いについて

昨年から始めました寄附金制度は、趣意書にもありますように継続して行っていくしますので、本年度もご協力の程よろしくお願いいたします。

寄附金についての詳細は同封の「応用生物科学部へ寄附金拠出のお願い」及び「趣意書」をご覧ください。

下記の記入例をご参考に、同封の申込用紙を利用してお申込下さい。

なお、お申込みいただきましたら、応用生物科学部より振込用紙を送付いたしますので、ご入金いただきますようお願いいたします。

詳しくはこちらを確認してください。

申込書の記入の仕方

* 申込書に必要事項をご記入ください。

* 申込書を下記の住所へお送りください。

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1

岐阜大学応用生物科学部学務係気付

岐阜大学各務同窓会事務局

【申込書】

別紙様式第 1 号

晴 皇 文 學 展 覽

住所氏名を記入し、
押印してください。

住所
草科
草図 (草年)
草図 (草年)
草図 (草年)

(別紙にあっては、組織名及び職・氏名をお願いします。)

金額を記入してください。

します。

22

1 寄附金額 () 円

2 要綱の目的及び条件

目 的 韓文文學における筆蹟研究の意義

是 作 念 L

3 資本金の名称

岐阜大学理学部附会

4 その他（主たる寄附金対象部局等）

應用生物科學部共通

(対応責任者：職名 応用生物科学部長 氏名 小見山 寛)

第 90 号

平成21年11月16日

岐阜大学各務同窓会

〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1

TFI (058) 293-2839

FAX (058) 293-2841

振替 00820-9-12742

<http://www1.gifu-u.ac.jp/~kagami01/>

e-mail ob-abs@gifu-u.ac.jp